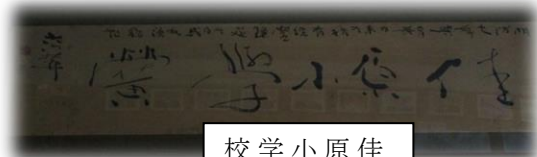




150年前の潮見小学校

今月16日(土)に潮見小学校150周年記念行事を行います。そこで、潮見小学校ができた頃のお話をします。今回の内容は、平成4年3月12日に発行された「ふるさとしおみ」を参考にしたものです。

潮見小学校が創立されたのは、1874年(明治7年)3月16日です。当時は、潮見小学校ではなく「吉原小学校」という名前でした。今の潮見校区は、かつて植物の「葦(よし)」がたくさん生えていたことから「よしはら」と言われていたそうで、吉原熊野神社があり「吉原郷」と呼ばれていたことから「吉原小学校」になったそうです。校長室には「佳(吉)原小学校」と書かれた額も残っています。植物の「葦」よりもよい意味が含まれている「佳」「や」「吉」が使われたと考えられます。正門に入って右側の木のそばには、かつて使われていた門柱が残っており、そこにも「吉原小学校」と記録されています。この「吉原小学校」は、誓重寺の本堂を借りてつくられていました。誓重寺にもそのことが記されている看板があります。



校学小原佳



では、いつから「潮見小学校」になったのでしょうか。1890年(明治23年)に、市町村制が実施され、吉藤、谷、大内平田、志津川の4つの村がまとまって「潮見村」となりました。子どもたちの数が増え、1891年(明治24年)には新校舎がつけられました。そして、1900年(明治33年)に、村立の学校にふさわしい名前として村の名前を用いることを、村会で決めて「潮見尋常小学校」となったわけです。

潮見小学校がつけられた1874年は、明治維新から7年しか経っていません。まだ土族の反乱などがあった時代です。一方で、自由民権運動の動きが見え始めたり郵便貯金制度が始まったりするなど、文明開化といった側面もありました。潮見小学校となった1900年は、日本が世界に少しずつ台頭していく時代です。産業も農業から工業に移っていくころです。

このようにして考えると、潮見小学校の歴史がいかに長かったのかということがよく分かります。これまでの歴史をつくってきたのは、たくさんの卒業生とその保護者、地域の方々です。そして、その伝統を受け継いで新たな潮見小学校をつくっているのは、現在の潮見っ子たちです。今月16日には子どもたちが考えた「我らが潮見小 未来につなごう集会 ～150周年の歴史とともに～」が、行われます。これまでの歴史とこれからの未来を考える時間にしてほしいと思います。



